

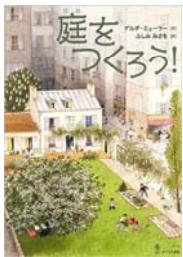
1 おばあさんのしんぶん



- ① 松本春野/文・絵
岩國哲人/原作
- ② 講談社
- ③ 1300円
- ④ E

太平洋戦争が終わって間もない頃、てつおは新聞を読むために新聞配達の仕事を始めます。いつも近所の老夫婦のところへ新聞を読みにいらしていましたが、おじいさんが亡くなり、やがておばあさんも亡くなったとき、てつおは老夫婦が自分にかけてくれた知られざる思いやりに感謝するのです。

2 庭をつくろう！



- ① ゲルダ・ミュラー/作
ふしみみさを/訳
- ② あすなる書房
- ③ 1500円
- ④ E

子どもたちの「庭づくり」の1年間が描かれ、春夏秋冬の草木や鳥から、自然のすばらしさや楽しさを感じることができる作品です。外国の暮らしや草花を使った遊びも知ることができ、庭づくりから家族や友だちとのふれあいも広がっていく様子がわかります。

3 ぼくの先生は東京湾



- ① 中村征夫/写真・文
- ② フレーベル館
- ③ 1400円
- ④ E

50年近く前から日本の発展と共に東京湾は汚れていき、生き物がほとんどいなくなりました。その後、様々な取組で少しずつ東京湾はきれいになってきましたが、現在も問題を抱えています。人間が他の生き物たちと共に自然の中で生きていくためにはどうしていくべきか。作者が東京湾から学んだことが描かれています。

4 リンドバーグ 空飛ぶネズミの大冒険



- ① トベン・ケルマン/作
金原瑞人/訳
- ② ブロンズ新社
- ③ 2200円
- ④ E

ねずみとりが怖くて逃げ出した仲間を追って、本好きの小ネズミ「リンドバーグ」は、自ら設計した飛行機で、アメリカに向かいます。失敗や困難にぶつかっても諦めずに前に進もうとする姿勢が、すばらしい絵とともに伝わってくる一冊です。

この絵本は、世界22か国で翻訳されています。

5 命はどうしてたいせつなの？



- ① 大野正人/作
ハラアツシ/絵
- ② 汐文社
- ③ 1600円
- ④ 15才015

命は大切です。しかし、人は人以外の命を食べて大きくなります。命は大切であるにもかかわらず、人は自分の命を大切にできないときがあります。

命を大切にすることとは、人を尊ぶことでもあります。そのことを「いただきます」と「ありがとう」の二つの言葉を通して分かりやすく説明している一冊です。

6 ここで土になる



- ① 大西暢夫/著
- ② アリス館
- ③ 1400円
- ④ 29才015

五木村のダム建設により、多くの人が村を去り学校や旅館、民家もなくなりました。その後、ダム建設は中止となり、村では老夫婦ふたりだけがこれまでと変わらない生活をしています。村の大きなイチヨウの木と一緒に根をおろし、次の世代のために石を拾う2人の写真から生きる力をもらいます。

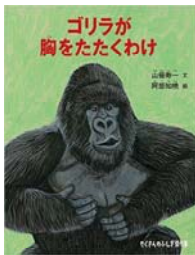
7 幸せとまずしさの教室
世界の子どものくらしから



- ① 石井光太/著
- ② 少年写真新聞社
- ③ 1600円
- ④ 36イ015

世界には3人に1人が満足にご飯が食べられなかったり、学校に行けなかったりと、「貧しい」暮らしをしているといわれています。では、そのような暮らしをしている人々は自分たちのことを不幸だと考えているのでしょうか。目に見えない、数字でも表せない「幸せ」とは何なのか、考えさせられる1冊です。

8 ゴリラが胸をたたくわけ



- ① 山極寿一/文
阿部知暁/絵
- ② 福音館書店
- ③ 1300円
- ④ 48ヤ015

ゴリラが胸をたたくとき、昔は戦闘の合図ととられ、人間から銃殺されてきました。しかし、ゴリラを間近で観察し続けた作者は、ゴリラが胸をたたくのはコミュニケーションをとるためであると考えました。皆と平和に暮らしていくためには、お互いを正しく理解することが大切であるという作者の思いが伝わってきます。

9 きずなを結ぶ震災学習列車
三陸鉄道、未来へ



- ① 堀米薫/文
- ② 佼成出版社
- ③ 1500円
- ④ 68ホ015

多くの犠牲を出した東日本大震災。多くの方が悲しみに暮れる中、5日後に列車を走らせるだけでなく、防災意識を高めることが命を守ることだと考え、震災学習列車を走らせた三陸鉄道で働く人々。その思いや行動に、改めて「自ら命を守ること」について考えさせられます。

10 勇気の花がひらくとき
やなせたかしとアンパンマンの物語



- ① 梯久美子/文
- ② フレーベル館
- ③ 1200円
- ④ 72カ015

「アンパンマン」の生みの親、やなせたかしの伝記です。家族への思いや戦争の悲惨さが伝わってくる作品でもあります。つらいとき思わず口ずさんでいるアンパンマンの歌に勇気をもろう人も多いようです。「生きること」をいつも考えていたやなせさんとともに考えてみたい一冊です。

11 目の見えない子ねこ、どろっぷ



- ① 沢田俊子/文
田中六大/絵
- ② 講談社
- ③ 1300円
- ④ 91サ015

主人公のつぐみは自分の意見をうまく言うことが苦手な女の子です。ある日、つぐみが家の庭で出会ったのは目の見えない子ねこでした。手術や目の見えないハンディキャップを乗り越えて、どんどん成長していく子ねこ。つぐみもそんな子ねこを見て自分の苦手なことに挑戦していくようになります。

12 茶畑のジャヤ



- ① 中川なをみ/作
- ② 鈴木出版
- ③ 1500円
- ④ 91ナ015

仲の良かった友だちが離れていき、クラスで孤立してしまった周。何でも話せていた祖父のいるスリランカへ行くことになります。そこで出会った少女ジャヤから民族の歴史について知ることになります。異文化に触れたり友だちとのふれあいにより、たくましく変わっていく主人公に共感できます。

13 小さい潜水艦に恋をしたでかすぎるクジラの話

戦争童話集～忘れてはイケナイ物語り～



- ① 野坂昭如/原作
黒田征太郎/画
- ② 世界文化社
- ③ 1600円
- ④ 91ノ015

戦争が奪うものは、人の命だけではありません。周りにいる動物や昆虫、植物など全てのものをだめにしてしまいます。12のお話は、全て戦争が終わった8月15日から始まる物語です。

戦争とはどういうものなのか、中学年にもわかりやすく書かれた作品です。

14 ケロニャンヌ



- ① 安田夏菜/作
しんやゆうこ/絵
- ② 講談社
- ③ 1300円
- ④ 91ヤ015

小学3年生のカイトくんが大好きなかえるのケロポンも猫のマリニャンヌも寿命をむかえます。悲しくて学校を休んだカイトくんの前に不思議な動物が現れます。同級生のヨシキくんとルカちゃんを含む3人と一匹のほのぼのとした交流を通して、命の大切さや残された者の思いを考えさせられる作品です。

15 わすれものの森



- ① 岡田淳/作
浦川良治/作
- ② B L 出版
- ③ 1300円
- ④ 91才015

たて笛を上手に吹くことができるツトムは、音楽会でも吹くことになりましたが、大事なたて笛をなくしてしまいます。そこで、学校に忍び込んで探しているとあやしい二人組に出会います。ツトムは無事にたて笛を取り戻せるのでしょうか。身近な話題である「わすれもの」をテーマにした楽しい冒険物語です。